校長室から

甘利　尚之

令和４年 11 月 10 日（木）No.21

「稲刈り、脱穀」に感謝

４年生の子どもたちは、先月の４日に稲刈りを、21 日に脱穀を、営農組合の皆さんに指導していただきながら経験をすることができました。子どもたちは一生懸命、稲を刈り、干し、脱穀に取り組みました。４年生の学級新聞には、

「10 月４日に稲刈りがありました。それぞれがまわりを見て動いて、協力し合っていたのでいいな、と思いました。ひもでいねを結ぶことやいねをかったりするの初めての人は、いいけいけんになったのではないでしょうか。」

と書かれていました。稲つくりの多くの部分、本当に大変な部分は、営農組合さんに負っていただくところが多く、子どもたちは、「いいとこどり」なのですが、新聞の感想からは、子どもたちなりに気を使い、働いたことがうかがえました。

稲つくりの体験、私が小学生の頃より続いている学習かと思いますが、やはりかけがえのない経験となると思います。以前、生きている魚と、食卓にのる切り身の魚とが結びつかず、「『魚の切り身』が海を泳いでいる絵」を真面目に描いた子どもの話をきいたことがあります。生きた経験が不足をしているが故のことであり、「食育」の必要性を感ずる話、生きる力の衰えさえ感ずる話かなとも思います。

ほぼ毎日食べるであろうお米が、どのように人間の口に入るようになるのか、地域の方の手をお借りしてのこの学習を通じて理解したことは、単にコメ作りのことにとどまらず、今、目の前にあるものは、理由なくしてここにあるのではないことに思いを寄せられるようになる、そんな育ちにつながるのではないかと考えています。感謝です。